

## 関西英語教育学会報 2008年度 第4号

事務局: 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1  
大阪教育大学 英語教育講座 本田勝久研究室内  
Tel & Fax: 072-978-3526 e-mail: honda@cc.osaka-kyoiku.ac.jp  
URL: <http://keles.hp.infoseek.co.jp/> 2008年12月26日発行

### 会長挨拶

#### 英語活動で生きる力をつける

教育は国家100年の計と申しますが、今まさに100年に1度のDepressionの到来で、社会はもとより学校教育においても、「生きる力」を育成することが急務の課題となってまいりました。それには、「自己調整のできる自律した」生徒を育てると同時に、「メタ認知能力」をも合わせもつ、真に生きる力を備えた学習者を育成する必要があると考えます。

そのためには、外国語(英語)が最も適した科目であると一介の英語教師として自負しております。第一の理由として、英語学習を言語教育としてとらえるとき、知識としての英語の体系を日本語と比較することでメタ認知能力を養うことができ、英語の活動面においては、スキル習得の過程で、Plan-Do-Monitoring-Feedbackという一連の流れで自律学習する習慣を育成することができるものがあげられます。第二の理由は、英語学習を国際理解の手段としてとらえるとき、知識としての外国文化を日本文化と比較することでメタ認知能力を養えると同時に、国際理解活動による交流スキルを習得する過程でも、Plan-Do-Monitoring-Feedback法で自律した学習習慣を育成することができるものがあげられます。

開発途上国の例でみますと、2005年から5年間にわたりJICAプロジェクトによるパプアニューギニア国の小学校英語教育をモニタリングする機会をもちましたが、そこでは、外国語としての英語を用いてDO-TALK-RECORD法による「高さ」(measurement of heights)表現の習得についてのグループ活動が行われていました。まず準備段階で7-8名からなるグループを作り、リーダー、ファシリテーター、タイムキーパー、記録係が選ばれます。次に「活動」のDOでは、グループごとに高さ順に並んで順位付けをします。そして「話す」のTALKでは、リーダーが1番背の高い人はだれ、2番目はだれというように問いかけ、該当者がそれに答え、記録係が記録していきます。最後に、「記録」のRECORDでは、紙テープを生徒の高さで切り、ものさしで測定・記録します。1番高い人、2番目と

いうようにラベリングもします。それらを生徒の成長の記録として教室の後ろに張り出し、だれでも閲覧できるようにします。そこでは、各自が分担した役割を誠実に実行し、自己の適性を発見して、それらを伸ばしていくことで、目に見える形での生きる力を育成する活動が行われていました。もちろん、部族語以外に共通語としての英語が必要であるという国情があるため、即座に日本にあてはめることはできませんが、大いに参考になる活動でありました。

さて、2011年春から小学校におきましても「英語活動」の授業が全国で一斉に開始されますが、それに備えて、学会主催のセミナーや研究会などへ参加していただくことで、先生方ご自身のメタ認知活動や自律学習のお手伝いをするのが学会の使命であると考えております。とりわけKELESは、就学前教育から大学までの幅広い教育・研究者を対象としており、間口が広く、どなたでも気軽にご参加いただけるよう、今後とも引き続き努力してまいります。その結果、今後ますます必要とされる生きる力を伴った授業力と研究力を兼ね備えた人材養成の一助となれば、学会を運営させていただく者としてこの上ない喜びでございます。来年も引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

吉田信介 (関西大学)

### KELES第12回セミナー(兵庫地区)報告

関西英語教育学会第12回セミナー(兵庫地区)が2008年10月13日(月・祝日)に、神戸市外国語大学三木記念会館において開催されました。講師として、稲岡章代先生(姫路市立豊富中学校)をお招きし、本学会副会長の玉井 健先生(神戸市外国語大学)とともに、活発なワークショップが行われました。また、参加者の皆様から頂いた質問に回答する「ワークショップ質問箱」と題した質疑応答が行われ、両先生から様々なご助言を頂き、有意義で充実したセミナーとなりました。当日は祝日にもかかわらず、およそ50名の方々が参加されました。

## ワークショップ(1):

「コミュニケーション能力を育成する授業づくり」

講師: 稲岡章代 (姫路市立豊富中学校)

コンコン、という机をたたくペンのリズムとともに稲岡先生が作られたチャンツから始まった。チャンツが進むにつれて、参加者がそのリズムになじんでいく中で、その数行に盛り込まれた先生の思いが語られる。中学卒業までに覚えて欲しい語、構文を示し、生徒の自己点検・振り返りを促し、ペンのリズムがなくなっても自分で読める生徒に育てていきたい。各チャンツの後に来るペア・グループ活動によって、生徒のゴールである自己表現の土台が作られていく。楽しさの中に、生徒が自己表現に向かって学んでいく道の見える活動であった。

その後、“What are you doing?” を活かす活動として、ALTがDVDで登場する電話での会話が示された。携帯電話をもつ稲岡先生と画面のALTとの会話が終了したときには、会場は拍手。生徒が同じようにやってみたい、と思うのは容易に想像できる。会場では、短い時間の会話練習であったが、生徒たちはALTとインタビューテストを行うまでに、十分練習し、全員がABC評価のAまたはBになることを目標に、テストに臨んでいると話されていた。

教科書の導入に、絵・写真などの視覚的なものを用い生徒の関心を高め、そのときに使われたTeacher Talkをモデルに生徒にスピーチをさせるということを紹介された。「教材に息を吹き込むのは生徒」と言われるように、すべての活動が生徒中心で、生徒が自己表現に向かっていくように計画されていた。

稲岡先生が、常に生徒に目を向け、生徒の持っているものをどう引き出すかを考えられていることがひしひしと伝わってくるワークショップであった。最後に「自分には何もない」と言う生徒に「教育がある」と励まし、指導されたエピソードに感動し、教育の力を考え直し、明日からもっとがんばろうと背中を押してもらったような気持ちになった。

報告者: 山本真理 (兵庫県立兵庫工業高等学校)

## ワークショップ(2):

Reflection for Teacher Development -My First Small Step-

講師: 玉井 健 (神戸市外国語大学)

Reflective Practiceという「自己探求の過程における発見をもとにさらなる自己理解を深め、教師としての変化をみずす」方法についてのセミナーであった。

最初は理論から始まった。Reflective cycleがExperience→Description(書く・話す)→Analysis/interpretation→Actionと進む過程について話された後、Journal writingなどこのプロセスを行うための方法、reflectionのタイプ(Shön, 1983)、実行する難しさ、1つの行為を理解するためのフレームワーク「教師力の4要素(Knowledge, Attitude, Skill, Awareness)」

Freeman (1986)、I, Thou, Itモデル (Hawkins, 1967) について説明された。

その後、“The moment I felt upset (in class)” という題で、参加者がペアになり、事実を言い合う(description)→「～だったんじゃないか」と思いついたまま解釈しあう(interpretation)→「～できるかも」と出し合う(action)→これからどうしたいか(choice)、という順でReflective Cycleの実践形態の一つであるInquiry Cycleを経験した。参加者は、互いにシェアリングする過程で考えや感情は変化したかどうかを問いかけられた。

最後に、Reflective practiceの例として外大の修士課程を終えられた山本先生(兵庫県立兵庫工業高校)のジャーナルを読み、実践者の授業と生徒に関する理解の変化について話し合った。終始和やかな雰囲気、さっそく実践してみたいと思うセミナーであった。

報告者: 篠原みゆき(兵庫教育大学大学院)

## ワークショップ質問箱:

稲岡章代 (姫路市立豊富中学校)

玉井 健 (神戸市外国語大学)

司会: 泉 恵美子 (京都教育大学)

ワークショップ質問箱では4名の方から質問があり、経験豊富な両先生から大変貴重な話を伺えた。

初めに、稲岡先生の韻を踏んだチャンツ学習の質問で、先生は呼吸で合わせ二拍子、四拍子を作るコツを説明された。また学習効果の一つに、生徒が生成する言語表現に冠詞の欠落が見られなくなる話は興味深かった。玉井先生からも、answerとrespondの二つの間にある違いについて言及され、経験から意味を取り出す過程の重要性を説かれた。

次に、新任の中・高教諭から、学習内容を学校外で既習した生徒や、訳読中心を進めてきた学校での活動導入の難しさが上がった。稲岡先生は、教師とinteractしながら話に入ることが大事でteacher-talkの持ち方で変わることや、教師が英語で話す形態を勧められた。玉井先生も、新たな授業文化を自分で創っていくことのおもしろさについて話された。

おしまいに、稲岡先生の教師としての使命感の話は、皆の心に響いた。授業だけでなく全人教育者として常に生徒に寄り添う姿勢は、現場に立つ我々に教師としての在り方を再認識させられた。

報告者: 横山聡洋 (京都文教短期大学 付属小学校)

## KELES第13回セミナー (京都・滋賀地区) 報告

関西英語教育学会第12回セミナー(兵庫地区)に引き続き、第13回セミナー(京都・滋賀地区)が2008年12月21日(日)にキャンパスプラザ京都第4講義室

にて開催されました。衣笠知子先生(衣笠英語教室主宰)と直山木綿子先生(京都市教育委員会)を講師として、小学校英語活動を進めるためのワークショップが行われました。また、久埜百合先生(中部学院大学)をお招きし、「小学校外国語活動必修化に向けて - 子どもの学びと教師の支援 - 」と題した講演が行われました。およそ90名の方々が参加されました。

ワークショップ(1):

「発達段階に応じた具体的指導法: うたや絵本の活用」

講師: 衣笠知子 (衣笠英語教室主宰)

本ワークショップでは、低学年、中学年、高学年の発達段階に応じた「うたと絵本」の活用法について、参加者が楽しく体験しながら学んだ。前半では、うたの意義についてお話をされた後、目的別に分類されたうたを美しいアカペラで歌ってくださり、様々な活動を紹介してくださった。例えば、“Day of the Week”では、低学年はそのまま歌うだけであるが、抽象的思考能力が発達してくる中学年以上では、いくつかの曜日を歌わないことで、考える活動になる。また、“Pat a Cake”や“Have You Ever Ever?”などでは、手や体を動かしながら、音と意味の関係を体得することで、自然に何度もうたに慣れ親しむことができる。後半では、絵本の意義についてお話しされた後、発達段階に応じた絵本の読み聞かせをしてくださった。衣笠先生の長年の実践に裏打ちされた、うたと絵本の世界に、参加者は引き込まれ、もっと先生の世界に浸っていたいという気持ちになるとともに、授業ですぐに実践できる素晴らしいアイデアをたくさん教えていただき、大変有意義であった。

報告者: 高木亜希子 (大阪教育大学)

ワークショップ(2):

「『英語ノート』を活用した英語活動の授業提案～『英語ノート』の特色をとらえた授業の展開～」

講師: 直山木綿子 (京都市教育委員会)

本年度より、拠点校に配布されている『英語ノート』について、その特色と活用方法について紹介してくださった。前半は理論編で、外国語(英語)活動の目標や指導者についてのポイントを抑えるとともに、外国語(英語)活動の現状と課題を概観し、京都市教育委員会のカリキュラムと比較しながら、『英語ノート』の特徴や指導計画についてお話いただいた。後半は実践編で、月を題材とした活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深める活動とはどういうものが教えてくださった。担任は、児童とやりとりをしながら、意味のある文脈で何度も月の単語を聞かせるとともに、各月の日本の行事や文化について児童に尋ねたり、陰暦の呼び方(如月など)を紹介して国語と関連させることで、身近な文化や言葉へ気づかせることが大切であるとのことであった。英語を使おう

とする姿勢を児童に見せ、日本文化や学校文化を大事にし、言葉のおもしろさに気づかせる活動は、日本の小学校文化を背負う担任の先生だからこそ可能である、という直山先生のお言葉は、多くの小学校の先生方を勇気づけたのではないだろうか。

報告者: 高木亜希子 (大阪教育大学)

講演: 「小学校外国語活動必修化に向けて - 子どもの学びと教師の支援 - : 現場での外国語活動から見た“次の一歩”」

講師: 久埜百合 (中部学院大学)

小学校での外国語活動必修化に向けて、今までの実践や研究を振り返り、現状を把握した上で「次の一歩」をどう踏み出すかという、数十年にわたる研究を積まれてきた久埜先生ならではの講演であった。まず、小学校での英語活動が最初に提言された当時の意図、活動の意義、目的について、ふんだんな例を用いて話された。次に、担任教諭や子どもたちの声から見出される課題をいくつか示された。最後に、活動の具体例としてSmart Boardの活用例や、ロープなど小物を使った活動をフロアとの対話を取り入れながら示された。

小学校英語活動のこれまで、現状、今後を通して考えるきっかけをいただいただけでなく、先生の温かく生き生きとしたお人柄に惹かれた。話の随所でフロアの声を確認される様子は「現場から届く質問やコメントに耳を傾ける」という姿勢を講演中にも示されているように感じ、「...みたいな。」など現代語を駆使したお話しぶりは、新しいものを躊躇せず取り入れる小学生の特性をご自身に映し出されているように感じられた。長年のご経験に裏付けられた理論と、現場を見つめる心づかい、新しいものを取り入れ「次の一歩」を踏み出す積極性に感じ入った講演であった。

報告者: 中西のりこ (神戸学院大学)

KELES第14回セミナー(奈良地区)のご案内

関西英語教育学会第14回セミナー(奈良地区)が2009年1月24日(土)に天理大学杉之内キャンパスにて開催されます。今回のセミナーは、天理大学英語教育研究会とともに、関西英語教育学会、天理大学、Nara JALT、NET Forumの共催にて開催されます。新しい学習指導要領が公示され、新学習指導要領への移行を見据えて「英語教育はどう変わったか、どう変わるか」をテーマに、パネル・ディスカッション、ワークショップが行われます。また、白畑知彦先生(静岡大学)をお招きし、「新学習指導要領と小・中・高の連携」と題した講演を行います。詳しくは、同封の案内状をご覧ください。参加を希望される方は、お名前、ご所属をお書きのうえ、件名「参加希望」を明記し、事前にメールまたはFAXにより問合せ先まで参加申し込みをお願いいたします。

日時: 2009年1月24日(土)12:45~17:40  
場所: 天理大学杉之内キャンパス2号棟22A教室  
テーマ: 「英語教育はどう変わったか、どう変わるか - 新学習指導要領への移行を見据えて -」  
プログラム

・パネル・ディスカッション: 13:00~14:40 「中学の授業と高校の授業 - 連携のための課題」

パネリスト: 西岡 保千代先生(菟田野中学校)  
吉田 敬子先生(真美ヶ丘中学校)  
江川 優美先生(畝傍中学校)  
俵本 睦先生(香芝東中学校)  
徳永 憲昭先生(奈良高校)  
渡部 憲一先生(法隆寺国際高校)

・ワークショップ: 14:50~16:00 「Rock into English - More Rhythms for Clear Speech !」

講師: Michael Boustany先生(明星大学)  
Michael Greenberg先生(東海大学)

・講演: 16:10~17:40 「新学習指導要領と小・中・高の連携」

白畑 知彦先生(静岡大学)

問合せ先: 天理大学言語教育研究センター  
中井 英民 研究室(電話: 0743-63-8277)  
e-mail: h-nakai@sta.tenri-u.ac.jp  
FAX: 0743-62-1965

## 今後のセミナーご案内

### KELES第15回セミナー(和歌山地区)

日程: 2009年3月14日(土)

日程は変更する場合があります。詳細は、次号のNewsletterおよび学会ホームページにてお知らせいたします。ご閲覧頂きますようお願いいたします。<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>

セミナー担当幹事: 泉 恵美子

### 第12回卒論修論研究発表セミナーご案内

#### 発表者募集

下記の通り、発表者を募集します。多くの修士2年、学部4年生の皆さんのご応募をお待ちしております。

日程: 2009年2月14日(土)

9:00受付開始(予定)

場所: 関西大学千里山キャンパス5号館

<http://www.kansai-u.ac.jp/index.html>

スペシャルトーク<<鼎談>>

「私たち外国語教育にかかわる者は、何を、なぜ、どう研究すべきか - 日本の外国語教育を縦断的・横断的に斬る -」(詳細は1月上旬にお知らせいたします。)

## 申込要領

申込期間: 2009年1月7日(水)~23日(金)

発表領域: 英語教育学を中心に、言語学・英語学(音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論など)、英米文学、社会言語学、心理言語学など関連分野における卒業論文および修士論文。

発表資格: 本学会会員である必要はありません。

申込方法: (1)氏名(フリガナ)、(2)所属、(3)卒論・修論の別、(4)発表タイトル、(5)キーワード3~5語、(5)発表要旨(日本語約200字または英語約100語)をメールで下記宛に送信(件名: keles+氏名) 発表タイトル、キーワード、発表要旨は発表言語でお書き下さい。

申込先: yokokawa@kobe-u.ac.jp(横川)

卒論・修論研究発表セミナー担当幹事: 横川博一

### 第13回関西英語教育学会 研究大会

・会場: 摂南大学10号館

・日程: 2009年6月6日

### 第35回全国英語教育学会 鳥取研究大会

・会場: 鳥取大学湖山キャンパス 共通教育棟

・日程: 2009年8月8日(土)・9日(日)

・担当地区学会: 中国地区英語教育学会

・研究発表申込締切: 2009年5月29日(金)

・大会予稿集原稿締切: 2009年6月19日(金)

・KELES担当企画: 課題研究フォーラム(2年目)「第二言語習得におけるインプットとアウトプットの関係(仮題)」

コーディネーター:

門田 修平先生(関西学院大学)

発表者:

メイソン 紅子先生(四天王寺国際仏教大学)

門田 修平先生(関西学院大学)

佐々木 みゆき先生(名古屋学院大学)

村野井 仁先生(東北学院大学)

### 第36回全国英語教育学会 大阪研究大会

・会場: 関西大学千里山キャンパス

・日程: 2010年8月7日(土)・8日(日)

・担当地区学会: 関西英語教育学会

### 新入会員紹介 2008年8月30日から12月22日

入金確認まで(敬称略)

斎藤由紀子

坂田直樹

川本京子

山西博之

納村祐貴

柏木賀津子

兼本美千代

竹野内倫子

2008年9月発行の関西英語教育学会「会員名簿」につきまして、所属の記載に間違いがありました。正しくは以下の通りです。

五十川敬子(立命館大学)

お詫びして訂正させていただきます。

名簿担当幹事: 岩井千春

### 会費納入のお願い

年会費は以下の通りです。未納の方は納入をお願いいたします。

1. 一般会員(関西のみ) 5,000円
2. 一般会員(関西+全国) 7,000円
3. 学生会員(関西のみ) 3,000円
4. 学生会員(関西+全国) 5,000円

なお、第35回全国英語教育学会鳥取研究大会での発表資格(単独発表および共同発表の代表者)は、2009年2月末日までに2008年度分の会費を完納していることが条件になりますので、発表を予定されている方はご注意ください。

### 紀要DVD販売のお知らせ

待望の紀要DVDが刊行!

英語教育研究の全貌をPC画面に!

『英語教育研究』過去28年分、『卒論・修論研究発表セミナー発表論文集』過去9年分(いずれも2005年度刊行分まで)を全て電子化。鮮明な画像で論文を通読できるほか、OCRによるテキスト情報を埋め込みましたので、論文内の単語などでの検索も可能になりました。

### 紀要DVDお申込み方法

郵便局で払い込み票を入手して頂き、学会の口座番号、加入者名と必要事項を記入して、所定金額をお振込みください。折り返し、DVDをお送りします。

口座記号番号: 00910-7-39666

加入者名: 関西英語教育学会

なお、通信欄に以下の4点をお忘れなく楷書にてご記入ください。

- 1) ご氏名
- 2) ご所属
- 3) KELES会員資格の有無
- 4) 申込み枚数

DVDは、送料込みで会員価格3,000円、非会員価格6,000円です。購入したご本人の使用に限定させて頂いております。貸与・複写などは固くお断り申し上げます。

会費納入および紀要DVD購入に関するお問合せは、会計担当 里井久輝(hsatoy@ilc.setsunan.ac.jp)までお願いいたします。

他の金融機関から「ゆうちょ銀行」に振り込まれる場合は、以下の「店名」「預金種目」「口座番号」「受取人氏名」が必要になります。

銀行名: ゆうちょ銀行

店名: 0九九店(読み方: ゼロキュウキュウ店)

預金種目: 当座

口座番号: 0039666

カナ氏名: カンサイエイゴキョウイクガツカイ

会計担当幹事: 里井久輝

## KELES 第14回セミナー(奈良地区)ご案内

日時: 2009年1月24日(土) 12:45~17:40

場所: 天理大学 杉之内キャンパス 2号棟 22A教室

詳細は同封の案内をご覧ください。

最新情報が学会HPにて随時更新されますので、  
頻りに閲覧いただきますようお願いいたします。

<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>

## 2008年度 関西英語教育学会 (KELES) 活動一覧

日程	場所	大会名	講師	内容
2008年 5月24日(土)	神戸大学 国際文化学部 キャンパス	第12回研究大会	田中茂範先生	・英語教育における“わかる 使える英文法”
7月28日(月)	大阪教育大学 天王寺キャンパス	第11回セミナー (大阪地区)	金井友厚先生 中嶋洋一先生	・生徒も先生もいきいきする 授業をめざして ・コミュニケーション能力を高 めるディベート指導
8月9日(土)	昭和女子大学	全国英語教育学会 課題研究フォーラム (2年間の継続研究 の1年目)	門田修平先生 神田みなみ先生 山崎朝子先生 野呂忠司先生 白井恭弘先生	・本フォーラムのめざすもの ・100万語多読 - 英語多読の 長期継続 ・多読指導の現状: 科学研究 の成果 ・中学・高校生に対する10分 間多読の効果 ・第二言語習得におけるイン プットの効用
10月13日(月)	神戸市外国語 大学 三木記念会館	第12回セミナー (兵庫地区)	稲岡章代先生 玉井 健先生	・コミュニケーション能力を育 成する授業づくり ・教師の成長のためのリフレ クション - 始めの一歩
11月29日(土)	摂南大学 大阪センター	関西英語教育学会幹事会		
12月21日(日)	キャンパスプラザ 京都	第13回セミナー (京都・滋賀地区)	衣笠知子先生 直山木綿子先生 久埜百合先生	・発達段階に応じた具体的指 導法: うたや絵本の活用 ・『英語ノート』を活用した英 語活動の授業提案 ・小学校外国語活動必修化 に向けて - 子どもの学びと 教師の支援 -
2009年 1月24日(土)	天理大学 杉之内キャンパス	第14回セミナー (奈良地区)	Boustany先生 Greenberg先生 白畑知彦先生	・Rock into English - More Rhythms for Clear Speech ! ・新学習指導要領と小・中・高 の連携
2月14日(土)	関西大学 千里山キャンパス	第12回卒論・修論 研究発表セミナー		・私たち外国語教育にかかわ る者は、何を、なぜ、どう研 究すべきか
3月14日(土)		第15回セミナー (和歌山地区)		